

【京都府PTA協議会会長賞】

「偽った自分」

福知山市立六人部中学校 3年
上 総 キャンディー



人に嫌われたくないと、一度でも思ったことがありますか。どう思われても気にしないという人、嫌われたくないという人で分かれるでしょう。私は絶対的に後者です。小さい頃、周りの皆が好きそうな絵本には興味がなく、小説ばかり読んでいました。もちろん人間の中に潜んでいる醜さが描かれている部分もたくさんありました。幼いときから脳の中にその意識がこびりついていたからなのか、小学生中学年の頃には、周りの目を気にするようになっていたのです。

どれだけ仲の良い友達にも、自分の思っていることははっきり言わず、相手の顔色を伺って言葉選びをしていました。周りにおびえている分、クラスメートの特色や性格も、人よりは把握していました。しかしおびえていることがバレて仲間外れにされるのは怖いので、基本は明るく振るまいます。

そんな日々を続けていると、周りからは優しいだとか、元気で面白い子だとか、そんな言葉をよくかけてもらえるようになりました。最初はうまくなじめている、と満足していたのですが、次第に心にモヤモヤが生まれてきました。本当は優しくない。ただ自分が嫌われないために言動している。自分のことしか考えられない最低な人間なのに…。わかっていてもやっぱり、自分優先の考えを直すことはできませんでした。

そして小学生高学年になったとき。私は彼女と出会いました。嘘がつけなくて、素直で、純粹で。同じクラスになったことがきっかけでよく話すようになって、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。いつだって素の状態でぶつかってくる彼女は、喜怒哀楽もはっきりしていて、不満に思ったことはすぐに口にしてくれました。そんな彼女は私のあこがれでもあり、大切な人でもあります。

信頼しているはずの彼女にできえも、自分の思うことを言えない私に徐々に嫌気がさしてきていました。どうしてこんなにも素敵な人なのに疑ってしまうのだろうと。簡単に人を嫌ったりする人ではないのに。

ある日、私は意を決して彼女に相談を試みることにしました。自分が人に嫌われるのを恐れていること、そのせいでものがはっきり言えないこと。そして、それに対して自分自身がどう思っているのかも。少しでも一歩前進できればいいな、彼女が私のことを理解してくれるといいな、という思いで彼女にすべてを話しました。

すると、彼女はなぜか泣き出してしまいました。そして、こう言ったのです
「初めて自分の意見言ってくれたね。話してくれて、ありがとう。」

彼女の涙と言葉で、気がつきました。私が何も話さないことを彼女は気づいていて、待っていてくれたんだと。そしてきっとその待ち時間の長さ、たくさん彼女を傷つけていたんだと。その瞬間に申し訳なさがだんだんこみあげてきて、大切な人を傷つけてしまったことを深く後悔しました。そして心に誓いました。「もう自分を偽るのはやめよう」と。

あなたは、人に嫌われたくないと、一度でも思ったことがありますか。人に好かれようと努力するのはけっして悪いことではないのです。しかし、周りのことばかりに気をとられて自分を演じているのは、本当の自分がいつの間にか消えてしまいます。人には良いところ、悪いところがあって当然です。悪いところを完璧に隠しきることはできないのです。なら、素の自分のまま自由に生きて、長所も短所も理解してくれる素敵な人と楽に過ごす方がずっともっと幸せだと思いませんか。あなたの周りにもたくさんいるはずですよ。もう一度自分と向き合ってみてください。

私は今、言いたいことを言い合える大切な仲間と家族に囲まれて、充実した日々を送っています。